

第 4 章 公共下水道(雨水)の 整備状況

1. 浸水被害の軽減
2. 雨水整備の状況

1. 浸水被害の軽減

都市型水害は、おもに都市域や都市周辺の開発が進んだ地域で多発する災害です。宅地化や道路舗装などが進んだために、地中に浸透する雨水の量が減り、各家の排水桝や道路の排水溝などから雨水管に流れ込む量が増えました。

また、近年では、地球環境の変化を受け、これまでの大雨の概念を超える局地的豪雨が増加する傾向にあります。このような想定を超える雨が降った場合、局地的な浸水被害が発生する恐れもありますので、雨水排水ルートを検証・検討やポンプ場の能力拡大、一時貯留施設などの整備を推進することにより、浸水被害の軽減を図ることが必要となっています。

2. 雨水整備の状況

浸水被害の頻度が高い地域を中心に幹線や支線水路、雨水管渠などの整備を10ヶ年計画に基づき進めており、現在、主要な管渠（幹線管渠）の計画延長約100kmの内、10年確率降雨（降雨量54.4mm/h）に対応できる排水能力がある管渠の整備率は約45%となっています。

本市では、平成8年度より10年確率降雨（降雨量54.4mm/h）に対応できるよう雨水排水計画を策定し、整備を順次進めています。

また、降った雨を河川に排除するために市内に9箇所の雨水ポンプ場を備えており、一定規模以上の雨が降った場合、これらのポンプを運転し、雨水を排除しています。このため、市内の雨水管渠が整備されたとしてもポンプ場の機能が脆弱では、雨水を河川に効率的に排除できないので、ポンプの機能整備を優先します。

【主要な幹線管渠の整備状況】

番号	排水区	延長(m)	流下確保(m)	流下断面確保率	番号	排水区	延長(m)	流下確保(m)	流下断面確保率
1	楠葉	6,101	2,704	44%	12	津田	951	112	12%
2	車谷川	1,085	360	33%	13	安居川	754	754	100%
3	八田川	1,478	803	54%	14	新安居川	2,222	1,203	54%
4	藤本川	6,589	3,255	49%	15	犬田川	2,600	1,690	65%
5	鎮守川	2,584	249	10%	16	申田川	78	78	100%
6	長尾	4,533	1,417	31%	17	蹉跎	12,351	8,850	72%
7	黒田川	23,738	10,467	44%	18	香里	5,397	1,183	22%
8	前田川	6,051	1,287	21%	19	小川	3,004	1,293	43%
9	穂谷川	7,118	1,035	15%	20	深谷	2,136	2,071	97%
10	溝谷川	3,816	2,889	76%	21	北谷川	385	167	43%
11	野々田川	7,007	3,341	48%	合計		99,978	45,208	45%

【平成28年度末時点】